

下記表の内容は、IEC White Paper Artificial intelligence across industries の内容から抽出したものである。また、出典明記の上適宜情報を追加している。(2019年7月 日本規格協会グループ)

機関 (団体)	担当 SC 等	関係規格 (基準)、関係プロジェクト等	備考
JTC 1	ISO/IEC JTC 1 Information technology	ISO/IEC 2382:2015 Information technology - Vocabulary	規格は完成し無料公開されている： https://www.iso.org/obp/ui/#iso:std:iso-iec:2382:ed-1:v1:en
	ISO/IEC JTC 1/SC 42	この小委員会の作業の一部を構成するトピックは次のとおりである。 § 基本基準 § コンピュータによるアプローチと特徴 AI の § 信頼性 § 使用事例およびアプリケーション § § ビッグデータ § 社会的懸念	
	ISO/IEC JTC 1/SC 42	ISO/IEC 22989: Artificial intelligence concepts and terminology ISO/IEC 23053: Framework for artificial intelligence systems using machine learning	2018年4月、JTC1/SC42は、基本基準に関するWG1を設立した。 人工知能の概念と用語(ISO/IEC22989); 機械学習を用いた人工知能システムのためのフレームワーク(ISO/IEC23053)。⇒左記
	ISO/IEC JTC 1/SC 42	§ SG1:人工知能システム(例えば機械学習アルゴリズム、推論)が使用する様々な技術を、その特性や特徴を含めて研究するための、人工知能システムの計算手法と特性;基礎となる計算手法、アーキテクチャ、特性を理解し、識別するための既存の特殊AIシステム(例:コンピュータビジョン、NLP);AIシステムを適用するための業界慣行、プロセス、方法について説明します。 § SG2:信頼性透明性、検証可能性、説明可能性、制御可能性等を通じたAIシステムの信頼性を確立するためのアプローチを調査する。;人工知能システムに関連する典型的な脅威とリスクの技術的落とし穴と評価、およびそれらの軽減技術と方法;AIシステムにおけるロバスト性、弾力性、信頼性、正確性、安全性、セキュリティ、プライバシーなどを実現するためのアプローチ;バイアスの最小化を目的としたAIシステムにおけるバイアスの種類、AIシステムにおける統計的バイアス及びAI支援意思決定を含む。 § SG3:異なるAI出願ドメイン(例えば、ソーシャルネットワーク、組み込みシステム)及びその使用の異なる文脈(例えば、ヘルスケア、スマートホーム、自律走行車)を特定するためのユースケース及び出願;代表的なユースケースの収集;また、プロジェクトISO/IEC22989及びISO/IEC23053で定義された用語及び概念を用いて、アプリケーション及びユースケースを記述し、必要に応じて用語を拡張する。	左記のプロジェクトの活動も上記と同時に承認されている
	その他の JTC1 部会	§ § JTC1/SC24: コンピュータグラフィックス、イメージ処理、および環境データ表現 § JTC1/SC27: ITセキュリティ技術 § JTC1/SC35: ユーザインタフェース § JTC1/SC37: バイオメトリクス § JTC1/SC38: クラウドコンピューティングと分散プラットフォーム § JTC1/SC40: ITサービス管理とITガバナンス § JTC1/SC41: モノのインターネットおよび関連テクノロジー	AIは他の多くのIT分野やアプリケーションに影響を与える横断的な技術であるため、JTC1の他の分科会では、AIを推進力または支援技術として活用する標準化作業を行っている。(左記)

※本資料に記載されている情報は、各種公開情報を基に日本規格協会グループにて整理を行ったものです。したがって、本資料は、これらの妥当性について、当協会グループとして、何ら保証を与えるものでも、意見を述べるものでもありません。

機関 (団体)	担当 SC 等	関係規格（基準）、関係プロジェクト等	備考
IEC	SC45A TC100 TC124	<p>§ SC45A: 原子力施設の計装、制御および電力システムは、原子力機器および制御要件をサポートおよび規制するコンピュータおよび情報システムの進歩に最新の IT および電子技術を適用することを目的として、AI に関する研究を実施した。</p> <p>§ TC100: オーディオ、ビデオ、およびマルチメディアのシステムおよび機器、ウェアラブルデバイスに関連する規格を開発し、AI および仮想現実の要素を含む「ウェアラブルデバイスの利用シナリオ」と題された議論のためのトピックを開始した。</p> <p>§ TC124: ウェアラブル電子デバイスおよびウェアラブル技術は、ウェアラブル技術の電気工学、材料および個人の安全性に関する技術基準の開発を担当するために最近形成された。このようなデバイスと技術は、AI 応用の文脈で広く使用されることが予想される。</p>	いくつかの IEC 委員会は、AI を作業計画に寄与する可能性のある要素の一つとみなしている。左記が例:
ISO	TC22 TC68 TC299	<p>§ TC22: 道路車両、道路車両のための基本的な基準を策定し、インテリジェンスと接続された車両に関する標準化の課題についても研究している。</p> <p>§ TC68: TC68: 金融サービス: 金融および銀行セクターの標準化に取り組んでいます。この委員会の約 58 の規格で新しい動向が網羅されている。</p> <p>§ TC299: Robotics は、様々な用途のためのロボット標準化の分野をカバーしている。</p>	いくつかの ISO 委員会は、左記のような AI 適用に関する規格の作成に関係している。具体的な規格（案）番号は別記表に記してある。
ITU	FG-ML5G など	<ul style="list-style-type: none"> ●アーキテクチャ、インターフェイス、ユースケース、プロトコル、アルゴリズム、データ形式、相互運用性、パフォーマンス、個人情報の評価・セキュリティ・保護。 ●既存のテクノロジー、プラットフォーム、ガイドライン、および将来のネットワークにおける機械学習の標準を調査、検討、調査する。 ●機械学習フレームワークの安全で信頼できる使用を可能にする側面の特定。人工知能の標準化のギャップ ●将来のネットワークで機械学習アルゴリズムを訓練、適応、圧縮、交換する方法、および複数のアルゴリズムが相互にどのように相互作用するかを検討および検討する。 ●将来のネットワークに適用される機械学習の要件を特定し、さまざまな固定および移動通信スタックを考慮し、これらの要件を満たすことができる新しい機械学習方法の開発を促進する。 ●機械学習を使用するためのネットワーク機能、インターフェイス、および機能に関する要件の特定。 ●コミュニケーションのための機械学習における標準化の課題を特定する。 ●これらのトピックに関する ITU-T 勧告の関連範囲を特定するためのギャップ分析と機械学習のロードマップの作成。 	AI の分野では、ITU - T は 5G (FG-ML5G) を含む将来のネットワークのための機械学習に関するフォーカスグループを持っている。このグループの目的は左記のとおり。 FG-ML5G 5G を含む将来のネットワークのための機械学習に関する ITU-T フォーカスグループは、2017 年 11 月 6-17 日にジュネーブで開催された ITU-T 研究グループ 13 によって設立された。インターフェイス、ネットワークアーキテクチャ、プロトコル、アルゴリズム、データフォーマットなど、将来のネットワークに対応する。 (一般社団法人情報通信技術委員会資料より)
IEEE		<p>§ IEEE P7000: システム設計時の倫理的問題に対処するためのモデルプロセス</p> <p>§ IEEE P7001: 自律システムの透明性</p> <p>§ IEEE P7002: データプライバシープロセス</p> <p>§ IEEE P7003: アルゴリズムによるバイアスの考慮事項</p> <p>§ IEEE P7004: 子供と生徒のデータガバナンスの標準</p> <p>§ IEEE P7005: 透明性の高い企業データガバナンスの標準</p> <p>§ IEEE P7006: 個人データ人工知能エージェントの標準</p> <p>§ IEEE P7007: 倫理に基づいたロボットおよび自動化システムのためのオントロジー標準</p> <p>§ IEEE P7008: 倫理に基づく標準</p> <p>ロボット、インテリジェント、自律システムのための微調整</p> <p>§ IEEE P7009: 自律システムおよび半自律システムのフェイルセーフ設計の標準</p> <p>§ IEEE P7010: 倫理的な人工知能と自律システムのための指標基準</p> <p>§ IEEE P7011: ニュースソースの信頼性を識別し、評価するプロセスの標準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●IEEE では、AI に関連する技術標準の倫理的側面を研究することを主な目的としており、2016 年 3 月に IEEE Standards Association が、AI がもたらす脅威に人々が対処するのを支援し、データプライバシーからフェールセーフエンジニアリングに至る倫理的設計の原則と標準を策定することを目的として、人工知能と自律システムにおける倫理的配慮のためのグローバルイニシアチブを立ち上げた。この傘下で、IEEE はこれまでに左記の標準化プロジェクトを承認した。 ●左記の P7012 のプロジェクトは、その後詳細な情報が公開されていないので、作業が何らかの理由で中止している可能性があるかもしれない。

※本資料に記載されている情報は、各種公開情報を基に日本規格協会グループにて整理を行ったものです。したがって、本資料は、これらの妥当性について、当協会グループとして、何ら保証を与えるものでも、意見を述べるものでもありません。

機関 (団体)	担当 SC 等	関係規格（基準）、関係プロジェクト等	備考																																																
		<p>§ IEEE P7012: マシン読み取り可能な個人のプライバシーに関する条項の標準</p> <p>下記、委員会構成概要</p> <table border="1" data-bbox="537 411 1694 961"> <thead> <tr> <th>タイトル</th> <th>役職者</th> <th>開始/完成目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P7000 倫理的設計のモデルプロセス</td> <td>議長: John Havens (IEEEコンサルタント、社会運動家) 副議長: Sarah Spiekermann (ウィーン経済・経営大学)</td> <td>2016年9月/ 2018年末</td> </tr> <tr> <td>P7001 自律システムの透明性</td> <td>議長: Alan Winfield (西イングランド大) 幹事: 江川尚志 (NEC)</td> <td>2016年12月/ 2018年1月</td> </tr> <tr> <td>P7002 データプライバシーの過程</td> <td>議長: Michelle Dennedy (Cisco) 副議長: Aurelie Pols (Mind Your Privacy(コンサルタント会社)) 幹事: Matthew Silveira (Objective Business Solutions)</td> <td>2016年12月/ 2018年1月</td> </tr> <tr> <td>P7003 アルゴリズムックバイアス(差別)</td> <td>議長: Ansgar Koene (ノッティンガム大) 副議長: Paula Boddington (オックスフォード大)</td> <td>2017年2月/ 2018年7月</td> </tr> <tr> <td>P7004 子供と学生データのガバナンス</td> <td>議長: Marsali Hancock (DQ Institute, シンクタンク, NPO)</td> <td>2017年3月/ 2019年2月</td> </tr> <tr> <td>P7005 従業員データのガバナンス</td> <td>議長: Ulf Bengtsson (Sveriges Ingenjorer, スウェーデン大学卒エンジニア協会) 副議長: Christina Colclough (UNI Global Union, 労働組合の国際組織)</td> <td>2017年3月/ 2017年12月</td> </tr> <tr> <td>P7006 パーソナルデータAIエージェント</td> <td>議長: Katryna Dow (Meeco) 副議長: Gry Hasselbalch (DataEthics (シンクタンク). コペンハーゲン大学教授でもある)</td> <td>2017年3月/ 2017年12月</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="537 995 1694 1503"> <thead> <tr> <th>タイトル</th> <th>役職者</th> <th>開始/完成目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P7007 用語</td> <td>議長: Edson Prestes (リオグランデ・ド・スル連邦大学) 副議長: Sandro Rama Fiorini (パリ第12大学)</td> <td>2017年3月/ 2018年3月</td> </tr> <tr> <td>P7008 人を倫理的につき動かすAI</td> <td>議長: Laurence Devillers (LIMSI, CNRS附属研究所) 副議長: John Sullins (ソノマ州立大学)</td> <td>2017年7月/ 2018年12月</td> </tr> <tr> <td>P7009 AIのフェールセーフ設計</td> <td>議長: Danit Gal(北京大学, IEEEアウトリーチ委員会議長) 副議長: Alan Winfield (西イングランド大)</td> <td>2017年7月/ 2018年12月</td> </tr> <tr> <td>P7010 AI時代の幸福の指標</td> <td>議長: John Havens (IEEEコンサルタント、社会活動家) 副議長: Laura Musikanski (Happiness Alliance, NPO)</td> <td>2017年7月/ 2018年12月</td> </tr> <tr> <td>P7011 ニュース源の信頼性の特定と信頼性評価</td> <td>議長: Joshua Hyman (ピッツバーグ大)</td> <td>2018年2月/ 2020年4月</td> </tr> <tr> <td>P7012 機械可読な個人情報の合意</td> <td>議長: David Reed (元MITメディアラボ、伝説的インターネット研究者)</td> <td>2018年2月/ 2019年7月</td> </tr> <tr> <td>P7013 自動化された顔分</td> <td>議長: Joy Buolamwini (MIT助教)</td> <td>2018年5月/ 2019年7月</td> </tr> </tbody> </table> <p>AIならではの: P7001, 03, 08, 13; 個人情報保護系: P7002, 04, 05, 06, 12; ソフトウェア系: P7000, 09 その他: P7007, 10, 11</p> <p>「人間中心のAI 社会原則検討会」AI 技術の方向性及び国際議論 日本電気 永沼美保氏資料より https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/humanai/3kai/siryu2-3.pdf</p>	タイトル	役職者	開始/完成目標	P7000 倫理的設計のモデルプロセス	議長: John Havens (IEEEコンサルタント、社会運動家) 副議長: Sarah Spiekermann (ウィーン経済・経営大学)	2016年9月/ 2018年末	P7001 自律システムの透明性	議長: Alan Winfield (西イングランド大) 幹事: 江川尚志 (NEC)	2016年12月/ 2018年1月	P7002 データプライバシーの過程	議長: Michelle Dennedy (Cisco) 副議長: Aurelie Pols (Mind Your Privacy(コンサルタント会社)) 幹事: Matthew Silveira (Objective Business Solutions)	2016年12月/ 2018年1月	P7003 アルゴリズムックバイアス(差別)	議長: Ansgar Koene (ノッティンガム大) 副議長: Paula Boddington (オックスフォード大)	2017年2月/ 2018年7月	P7004 子供と学生データのガバナンス	議長: Marsali Hancock (DQ Institute, シンクタンク, NPO)	2017年3月/ 2019年2月	P7005 従業員データのガバナンス	議長: Ulf Bengtsson (Sveriges Ingenjorer, スウェーデン大学卒エンジニア協会) 副議長: Christina Colclough (UNI Global Union, 労働組合の国際組織)	2017年3月/ 2017年12月	P7006 パーソナルデータAIエージェント	議長: Katryna Dow (Meeco) 副議長: Gry Hasselbalch (DataEthics (シンクタンク). コペンハーゲン大学教授でもある)	2017年3月/ 2017年12月	タイトル	役職者	開始/完成目標	P7007 用語	議長: Edson Prestes (リオグランデ・ド・スル連邦大学) 副議長: Sandro Rama Fiorini (パリ第12大学)	2017年3月/ 2018年3月	P7008 人を倫理的につき動かすAI	議長: Laurence Devillers (LIMSI, CNRS附属研究所) 副議長: John Sullins (ソノマ州立大学)	2017年7月/ 2018年12月	P7009 AIのフェールセーフ設計	議長: Danit Gal(北京大学, IEEEアウトリーチ委員会議長) 副議長: Alan Winfield (西イングランド大)	2017年7月/ 2018年12月	P7010 AI時代の幸福の指標	議長: John Havens (IEEEコンサルタント、社会活動家) 副議長: Laura Musikanski (Happiness Alliance, NPO)	2017年7月/ 2018年12月	P7011 ニュース源の信頼性の特定と信頼性評価	議長: Joshua Hyman (ピッツバーグ大)	2018年2月/ 2020年4月	P7012 機械可読な個人情報の合意	議長: David Reed (元MITメディアラボ、伝説的インターネット研究者)	2018年2月/ 2019年7月	P7013 自動化された顔分	議長: Joy Buolamwini (MIT助教)	2018年5月/ 2019年7月	
タイトル	役職者	開始/完成目標																																																	
P7000 倫理的設計のモデルプロセス	議長: John Havens (IEEEコンサルタント、社会運動家) 副議長: Sarah Spiekermann (ウィーン経済・経営大学)	2016年9月/ 2018年末																																																	
P7001 自律システムの透明性	議長: Alan Winfield (西イングランド大) 幹事: 江川尚志 (NEC)	2016年12月/ 2018年1月																																																	
P7002 データプライバシーの過程	議長: Michelle Dennedy (Cisco) 副議長: Aurelie Pols (Mind Your Privacy(コンサルタント会社)) 幹事: Matthew Silveira (Objective Business Solutions)	2016年12月/ 2018年1月																																																	
P7003 アルゴリズムックバイアス(差別)	議長: Ansgar Koene (ノッティンガム大) 副議長: Paula Boddington (オックスフォード大)	2017年2月/ 2018年7月																																																	
P7004 子供と学生データのガバナンス	議長: Marsali Hancock (DQ Institute, シンクタンク, NPO)	2017年3月/ 2019年2月																																																	
P7005 従業員データのガバナンス	議長: Ulf Bengtsson (Sveriges Ingenjorer, スウェーデン大学卒エンジニア協会) 副議長: Christina Colclough (UNI Global Union, 労働組合の国際組織)	2017年3月/ 2017年12月																																																	
P7006 パーソナルデータAIエージェント	議長: Katryna Dow (Meeco) 副議長: Gry Hasselbalch (DataEthics (シンクタンク). コペンハーゲン大学教授でもある)	2017年3月/ 2017年12月																																																	
タイトル	役職者	開始/完成目標																																																	
P7007 用語	議長: Edson Prestes (リオグランデ・ド・スル連邦大学) 副議長: Sandro Rama Fiorini (パリ第12大学)	2017年3月/ 2018年3月																																																	
P7008 人を倫理的につき動かすAI	議長: Laurence Devillers (LIMSI, CNRS附属研究所) 副議長: John Sullins (ソノマ州立大学)	2017年7月/ 2018年12月																																																	
P7009 AIのフェールセーフ設計	議長: Danit Gal(北京大学, IEEEアウトリーチ委員会議長) 副議長: Alan Winfield (西イングランド大)	2017年7月/ 2018年12月																																																	
P7010 AI時代の幸福の指標	議長: John Havens (IEEEコンサルタント、社会活動家) 副議長: Laura Musikanski (Happiness Alliance, NPO)	2017年7月/ 2018年12月																																																	
P7011 ニュース源の信頼性の特定と信頼性評価	議長: Joshua Hyman (ピッツバーグ大)	2018年2月/ 2020年4月																																																	
P7012 機械可読な個人情報の合意	議長: David Reed (元MITメディアラボ、伝説的インターネット研究者)	2018年2月/ 2019年7月																																																	
P7013 自動化された顔分	議長: Joy Buolamwini (MIT助教)	2018年5月/ 2019年7月																																																	

※本資料に記載されている情報は、各種公開情報を基に日本規格協会グループにて整理を行ったものです。したがって、本資料は、これらの妥当性について、当協会グループとして、何ら保証を与えるものでも、意見を述べるものでもありません。

機関 (団体)	担当 SC 等	関係規格（基準）、関係プロジェクト等	備考
ETSI	ISG ENI	<p>●ETSI は、閉ループ制御アプローチを組み込んだ認知ネットワーク管理システムの標準を開発することを目標とする、体験型ネットワークインテリジェンス (ENI) に関する業界仕様グループ (ISG) を持っている。このアプローチは「モニタ解析計画実行」モデルに基づいており、学習機能によって強化されている。</p> <p>構想されたコグニティブネットワーク管理システムは、利用可能なネットワーク資源とサービスの利用を、ユーザニーズ、環境条件およびビジネス目標のリアルタイム変化に応じて操縦することを可能にする。システムによって行われる決定は、ネットワーク資源の複雑な状態に関する詳細な情報と、オペレータの好みを表すポリシーに依存する。</p> <p>●人工知能の標準化のギャップ</p> <p>ISG ENI アプローチのユニークな付加価値は、計量を導入することによりオペレータ経験を定量化し、機械学習と推論を利用することによりオペレータ経験の時間的最適化と調整を行うことである。</p> <p>このグループでは、様々な AI メカニズムを用いて適応行動変化を駆動するために、様々なタイプの政策をレビューする。ISG ENI は、リソース管理、サービス管理、オーケストレーション、およびポリシー管理など、レガシーおよび発展中のネットワーク機能のための既存の標準化されたソリューションを、適用可能な場所でレビューし、再利用します。</p>	
中国	SAC/TC28 SAC/TC159 SAC/TC242 SAC/TC260 SAC/TC268	<p>§ 国家情報技術標準化ネットワーク (SAC/TC28)</p> <p>SAC/TC28 は、主に、ボキャブラリ、ユーザインターフェース、バイオメトリック特徴認識、および他の分野に関連する AI 標準化作業を扱う。用語及び語彙の分野では、これまでに、GB/T 5271.28 2001:Information technology-Vocabulary-Part28:Artificial Intelligence-Basic concepts and expert systems のような四つの基本的な国家標準が発行されている。</p> <p>ユーザーインターフェース分科会では、複数の国家標準を作成し、モーションセンシング相互作用と脳-コンピュータインターフェースワーキンググループを設置して、関連する標準化研究を行っている。国際プロポーザル「情報技術感情計算ユーザインタフェースフレームワーク」を提出し、承認されている。</p> <p>生体特徴認識委員会は、指紋、顔、虹彩認識に関する規格を作成した。また、国家情報セキュリティ標準化技術委員会のビッグデータ標準化作業部会、クラウドコンピューティング標準化作業部会、国家センサネットワーク標準化作業部会においても、AI の関連技術や応用を支援するための基本規格の策定に取り組んでいる。</p> <p>§ 自動化システムおよび統合に関する国家技術委員会 (SAC/TC159)</p> <p>SAC/TC159 の下、ロボット機器の SC2 は、システムインターフェイス、コンポーネント、コントローラなどを含む完全な産業用ロボットを担当しています。同委員会は、産業用ロボット-自動エンドエフェクタ交換システム-語彙および特性の提示などの標準を GB/T17887-1999 のようにいくつかリリースしています。</p> <p>§ § オーディオ、ビデオ、マルチメディアおよび機器に関する全国技術委員会 (SAC/TC242)</p> <p>SAC/TC242 は、オーディオ、ビデオ、スマートヘルスケア製品の関連規格に関する研究を行った。現在の標準には、例えば、バーチャルリアリティオーディオ (2017-0279) の主観評価方法が含まれている。</p> <p>§ 情報セキュリティに関する国家技術委員会 (SAC/TC260)</p> <p>SAC/TC260 では、AI 技術を中心に、生体認証、スマートシティ、知的製造などのセキュリティ関連規格を策定しています。</p> <p>§ 高度道路交通システムに関する国家技術委員会 (SAC/TC268)</p> <p>SAC/TC268 は、高度道路交通の分野で標準化作業を行ってきた。また、GB/T 31024.2-2014 協調型インテリジェント・トランスポート・システム:専用の短距離通信:パート 2:メディア・アクセス制御層と物理層の仕様、などの標準も策定されています。</p>	

※本資料に記載されている情報は、各種公開情報を基に日本規格協会グループにて整理を行ったものです。したがって、本資料は、これらの妥当性について、当協会グループとして、何ら保証を与えるものでも、意見を述べるものでもありません。

機関 (団体)	担当 SC 等	関係規格（基準）、関係プロジェクト等	備考
米国		<p>至近までは、米国は現在、AI に関するパートナーシップを形成するための多国籍企業に関する政策や基準を実施しておらず、その目的はベストプラクティスを開発し共有することにあつて、研究の数も増えつつあつた。</p> <p>AI に関する政策、倫理、安全性の問題に取り組む機関や非政府組織は、政府に頼るのではなく、「AI に関するパートナーシップ」のような民間の共同イニシアティブが、近い将来、米国に拠点を置く企業にとって何らかの基準となる可能性が最も高いと思われる。</p> <p>前政権が政策や基準を設定することに大きな関心を持ち、広く引用されている2つのAI の課題と機会に関する報告書を発表したことは注目に値するが、これらの文書にアクセスできるのはその一部としてのみである。</p> <p>前政権の公式記録であり、本書を執筆している時点では、現政権がこの記録をどのように活用するのか、あるいは活用するのかは完全には明らかになっていない。</p>	<p>●2019年2月、米国のドナルド・トランプ大統領は、人工知能における米国のリーダーシップ維持に関する大統領令を発出し、米国の人工知能政策に対する明確な行動計画を示した。</p>
欧州		<p>人工知能に関するハイレベル専門家グループの目的</p> <p>同グループの一般的な目的は、AI に関する欧州戦略の実施を支援することであり、これには、AI に関連する今後の政策策定や、社会経済的課題を含むAI に関連する倫理的、法的、社会的問題に関する提言が含まれる。</p> <p>具体的には、グループは以下の任務を負う。</p> <p>政策策定プロセス、立法評価プロセス、次世代デジタル戦略の策定につながる提言を通じて、AI 関連の中長期的な課題と機会に対処するための次のステップについて委員会に助言する。</p> <p>アムネスティと同委員会の活動について、より幅広いステークホルダーと交流し、情報を共有し、意見を収集するための更なる関与とアウトリーチのメカニズムについて、同委員会を支援する。</p> <p>公正性、安全性、透明性、仕事の将来、民主主義、より広い意味でのプライバシーと個人情報保護、尊厳、消費者保護、無差別を含む基本的権利憲章の適用への影響などの問題を含む、委員会AI 倫理ガイドラインを提案する</p> <p>本ガイドラインは、欧州科学技術倫理グループ(プロジェクト「ビッグデータと基本的権利」)及びこの分野におけるEU 基本権機関(European Group on Ethics in Science and New Technologies(EGE)は、欧州委員会委員長が設立した独立した諮問機関です。)の活動を基礎とする。</p> <p>https://ec.europa.eu/digital-single-market/en/news/call-high-level-expert-group-artificial-intelligence</p>	<p>●2017年から始まっている4か年計画の欧州全体の研究プロジェクト Horizon2020 に於いて人間の脳神経の仕組みについての研究をしている。これはAI への応用を前提にしている研究である。</p>

※本資料に記載されている情報は、各種公開情報を基に日本規格協会グループにて整理を行ったものです。したがって、本資料は、これらの妥当性について、当協会グループとして、何ら保証を与えるものでも、意見を述べるものでもありません。

開発中の JTC1 の AI 関係規格 (SA Discussion Paper から抜き出し、一部情報を確認して追加した)

現在開発中の規格	規格票題	担当 SC
ISO/IEC AWI TR 20547-1	Information technology – Big data reference architecture – Part 1: Framework and application process	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC DIS 20547-3	Information technology – Big data reference architecture – Part 3: Reference architecture	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC WD 22989	Artificial intelligence – Concepts and terminology	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC WD 23053	Framework for Artificial Intelligence (AI) Systems Using Machine Learning (ML)	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC AWI 23894	Information Technology – Artificial Intelligence – Risk Management	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC NP TR 24027	Information technology – Artificial Intelligence (AI) – Bias in AI systems and AI aided decision making	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC PDTR 24028	Information technology – Artificial Intelligence (AI) – Overview of trustworthiness in Artificial Intelligence	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC NP TR 24029-1	Artificial Intelligence (AI) – Assessment of the robustness of neural networks – Part 1: Overview	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC NP TR 24030	Information technology – Artificial Intelligence (AI) – Use cases	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC NP TR 24368	Information technology – Artificial intelligence – Overview of ethical and societal concerns	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC NP TR 24372	Information technology – Artificial intelligence (AI) – Overview of computational approaches for AI systems	ISO/IEC JTC1 SC42
ISO/IEC NP 38507	Information technology – Governance of IT – Governance implications of the use of artificial intelligence by organizations	ISO/IEC JTC1 SC42

※本資料に記載されている情報は、各種公開情報を基に日本規格協会グループにて整理を行ったものです。したがって、本資料は、これらの妥当性について、当協会グループとして、何ら保証を与えるものでも、意見を述べるものでもありません。